

○当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類 信託期間	追加型投資/内外/その他資産/特殊型 無期限	
運用方針	<p>主要先進国における長短金利差(タームプレミアム)に基づくファクター・プレミアムの確保を目指す国内投資信託「債券タームスプレッド・プレミア戦略ファンド<適格機関投資家限定>」を主要投資対象とし、ファンド・オブ・ファンズ方式で運用を行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■日本円短期金利(無担保コール翌日物)を上回る運用を目指します。 ■「債券タームスプレッド・プレミア戦略ファンド<適格機関投資家限定>」の組入比率は原則として高位を維持し、「短期国債ファンドVA<適格機関投資家限定>」の組入れも行います。 ■債券タームスプレッド・プレミア戦略ファンド<適格機関投資家限定>においては、以下の運用を行います。 <ul style="list-style-type: none"> ・主要先進国の長短金利差(タームプレミアム)に基づくファクター・プレミアムを確保するために、定量的・システムティックなプロセスを通じて、対象国に上場されている10年国債先物取引を活用してロング/ショート・ポジションを構築します。 ・原則として日本、米国、英国、ドイツ、フランス、カナダ、オーストラリアおよびスウェーデン(以下「対象国」といいます。)(の8ヶ国に上場されている10年国債先物取引を取引対象としますが、市場流動性等を勘案して一部の国を除外する場合や対象国を変更する場合があります。 ・対象国における長短金利差(タームプレミアム)の格差に着目し、長短金利差のランキングに従い、上位国の10年国債先物取引のロング(買建)および下位国の10年国債先物取引のショート(売建)を行います。対象国の10年国債先物取引のロング(買建)およびショート(売建)の美質的なポジションは、それぞれ原則として信託財産の純資産総額の100%相当額とします。 ・組入外貨建資産については原則として為替ヘッジを行います。 	
主要運用対象	当該ファンド 債券タームスプレッド・プレミア戦略ファンド<適格機関投資家限定>	債券タームスプレッド・プレミア戦略ファンド<適格機関投資家限定>および短期国債ファンドVA<適格機関投資家限定> 受益証券
	債券タームスプレッド・プレミア戦略ファンド<適格機関投資家限定>	主要先進国の10年国債先物取引および短期国債マザーファンド受益証券
	短期国債ファンドVA<適格機関投資家限定>	短期国債マザーファンド受益証券
組入制限	<ul style="list-style-type: none"> ・投資信託証券への投資割合には制限を設けません。 ・株式への直接投資は行いません。 ・外貨建資産への直接投資は行いません。 ・デリバティブの直接利用は行いません。 ・信用リスク管理を目的に一般社団法人投資信託協会規則に定めるものに対する株式等エクスポージャー、債券等エクスポージャーおよびデリバティブ等エクスポージャーの信託財産の純資産総額に対する比率は、原則としてそれぞれ10%、合計で20%以内とすることとし、当該比率を超えることとなった場合には、同規則に従い当該比率以内となるよう調整を行うこととします。 	
分配方針	毎決算時に、原則として次の通り収益分配を行う方針です。 <ol style="list-style-type: none"> ①分配対象額の範囲 分配対象額は、経費控除後の利息・配当収入および売買益(評価益を含みます)等全額とします。 ②分配方針 分配金額は、委託者が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。ただし、分配対象額が少額の場合には、分配を行わないこともあります。 ③留保益の運用方針 収益分配に充てず信託財産内に留保した利益については、運用の基本方針に基づき運用を行います。 	

<ファンドに関する照会先>

営業本部

電話番号 03(4530)7333

お問い合わせ時間(営業日) 9:00~17:00

ホームページアドレス www.ssga.com/jp

STATE STREET GLOBAL ADVISORS

ステート・ストリート債券タームスプレッド・プレミア戦略オープン

第1期 運用報告書(全体版)
(決算日 2019年6月20日)

受益者のみなさまへ

平素は格別のお引き立てを賜り、厚く御礼申しあげます。この度、「ステート・ストリート債券タームスプレッド・プレミア戦略オープン」は、2019年6月20日に第1期の決算を行いましたので、運用状況をご報告させていただきます。

今後とも、ご愛顧のほどよろしくお願い申しあげます。

ステート・ストリート・グローバル・アドバイザーズ株式会社

〒105-6325 東京都港区虎ノ門一丁目23番地1号 虎ノ門ヒルズ森タワー25階

◎設定以来の運用実績

決算期	基準価額			<ベンチマーク> 日本円短期金利 (無担保コール翌日物)		投資信託証券 組入比率	純資産 総額
	(分配落)	税込み 分配金	期中 騰落率	期中 騰落率			
(設定日) '18年9月20日	円 10,000	円 -	% -	10,000	% -	% -	百万円 9
1期('19年6月20日)	9,995	0	△ 0.1	9,996	△ 0.0	99.3	635

(注) ベンチマークは、日本円短期金利(無担保コール翌日物)で、ファンド設定日を10,000として委託会社が独自に指数化したものです。

◎当期中の基準価額と市況等の推移

年月日	基準価額		<ベンチマーク> 日本円短期金利 (無担保コール翌日物)		投資信託証券 組入比率
		騰落率		騰落率	
(設定日) '18年9月20日	円 10,000	% -	10,000	% -	% -
9月末	9,959	△ 0.4	10,000	△ 0.0	100.0
10月末	10,055	0.6	9,999	△ 0.0	85.3
11月末	10,031	0.3	9,999	△ 0.0	90.3
12月末	9,858	△ 1.4	9,998	△ 0.0	98.1
'19年1月末	9,893	△ 1.1	9,998	△ 0.0	99.0
2月末	9,898	△ 1.0	9,997	△ 0.0	99.6
3月末	9,954	△ 0.5	9,997	△ 0.0	99.2
4月末	9,967	△ 0.3	9,996	△ 0.0	99.9
5月末	9,967	△ 0.3	9,996	△ 0.0	99.1
(期末) '19年6月20日	9,995	△ 0.1	9,996	△ 0.0	99.3

(注1) 騰落率は設定日比です。

(注2) ベンチマークは、日本円短期金利(無担保コール翌日物)で、ファンド設定日を10,000として委託会社が独自に指数化したものです。

当期の運用実績

(2018年9月20日から2019年6月20日まで)

基準価額とベンチマークの推移



(注) ベンチマークは、日本円短期金利(無担保コール翌日物)で、ファンド設定日を10,000として委託会社が独自に指数化したものです。

決算期	当初元本	期末基準価額 (分配落ち)	分配金	基準価額 騰落率	ベンチマーク 騰落率
第1期	10,000円	9,995円	0円	-0.1%	-0.0%

当期末の基準価額は9,995円となり、当初元本の10,000円に比べて5円の下落となりました。

基準価額の変動要因およびベンチマークとの比較

基準価額の騰落率は-0.1%となり、ベンチマークの騰落率(-0.0%)を0.1%下回りました。

【プラスの要因】

- 利回り低下が相対的に抑制された日本国債のショートがプラスに寄与しました。

【マイナスの要因】

- 利回りが大幅に低下した米国債のショートがマイナスに寄与しました。
- 利回り低下が相対的に抑制された英国債のロングがマイナス寄与しました。
- 信託報酬等の費用控除がマイナスに寄与しました。

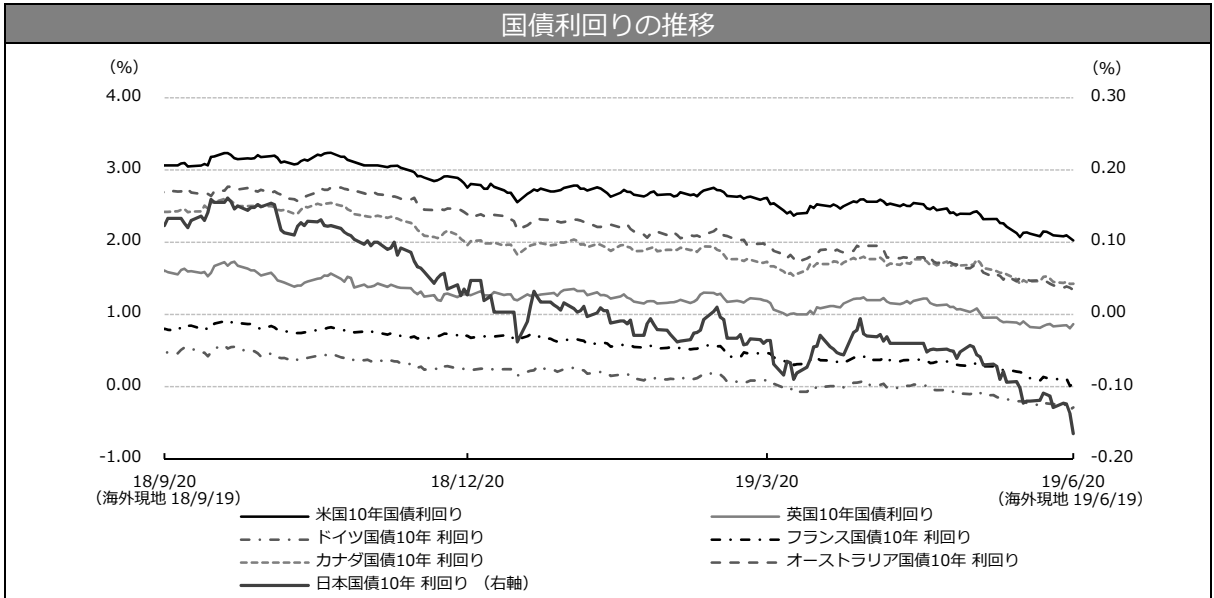
収益分配金

当期の収益分配金は基準価額の水準、市況動向などを勘案した結果、見送りとさせていただきます。また、収益分配に充てず信託財産に留保した収益は、特に制限を設けず、元本部分と同様の運用を行う方針です。

投資環境

(2018年9月20日から2019年6月20日まで)

主要各国の市場概況



当期の世界の債券市場は、利回りが低下しました。米国では2018年末に米当局の引き締め政策で経済成長が鈍化するとの懸念が広がり、世界的に株式市場が大幅に下落するなどリスク許容度の悪化を背景に利回りが低下しました。2019年入り後、世界的な貿易摩擦激化が世界経済へ与える影響が懸念されたことや、米連邦準備制度理事会(FRB)が年内の利上げを見送る方針を示すなど予想以上にハト派色を強め、また利下げ期待も観測される中、さらに利回りが低下しました。欧州では英国の欧州連合(EU)離脱を巡る不透明感や政治的混迷、また軟調な欧州経済指標が散見されたことを背景に、独、英、仏で利回りが低下しました。また、カナダや豪でもリスク許容度の悪化を背景に利回りが低下しました。日本でも利回りが低下しましたが、日銀の強固な金融政策により利回りの動きは抑制されました。

米国10年債利回りは、設定日2018年9月20日(現地9月19日)の3.06%から当期末2019年6月20日(現地6月19日)の2.02%へ低下(債券価格は上昇)しました。同期間の独10年債利回りは0.49%から-0.29%へ低下、英10年債利回りは1.61%から0.87%へ低下、仏10年債利回りは0.80%から0.05%へ低下、カナダ10年債利回りは2.42%から1.43%へ低下、豪10年債利回りは2.71%から1.34%へ低下、日10年債利回りは0.12%から-0.17%へ低下しました。

運用の概況

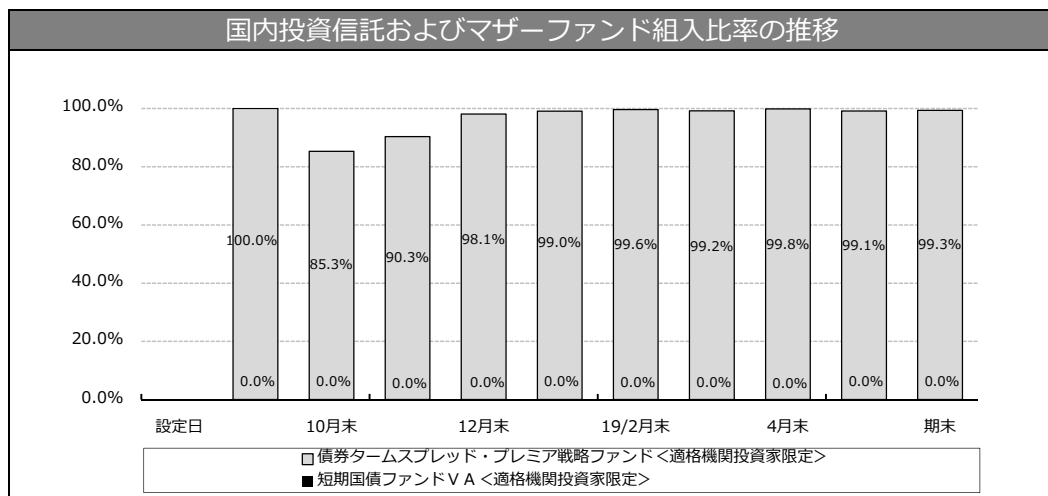
(2018年9月20日から2019年6月20日まで)

当ファンドは主要先進国における長短金利差(タームプレミアム)に基づくファクター・プレミアムの確保を目指す国内投資信託「債券タームスプレッド・プレミア戦略ファンド<適格機関投資家限定>」を主要投資対象とし、ファンド・オブ・ファンズ方式で運用を行います。

国内投資信託「債券タームスプレッド・プレミア戦略ファンド<適格機関投資家限定>」は、主要先進国の長短金利差(タームプレミアム)に基づくファクター・プレミアムを確保するために、定量的・システムティックなプロセスを通じて、対象国に上場されている10年国債先物取引を活用してロング/ショート・ポジションを構築します。また、実質的な組入外貨建資産については原則として為替ヘッジを行いつつ、短期国債マザーファンドへの投資を通じて実質的に日本短期国債に投資を行うことにより、中長期的な観点から、安定的な投資成果の獲得を目指して運用を行います。

国内投資信託およびマザーファンドの組入状況

当期は、設定日翌営業日から国内投資信託および短期国債マザーファンドの組み入れを開始しました。



今後の運用方針

今後も引き続き、主要先進国における長短金利差(タームプレミアム)に基づくファクター・プレミアムの確保を目指す国内投資信託「債券タームスプレッド・プレミア戦略ファンド<適格機関投資家限定>」を主要投資対象とし、ファンド・オブ・ファンズ方式で運用を行ってまいります。

◎1万口(元本10,000円)当たりの費用の明細

項 目	当 期 (2018年9月20日~2019年6月20日)		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
平均基準価額	9,953円	-	期中の平均基準価額です。
(a) 信託報酬	37円	0.369%	(a)信託報酬 = 期中の平均基準価額 × 信託報酬率 消費税は報告日の税率を採用しています。
(投信会社)	(34)	(0.341)	委託した資金の運用の対価
(販売会社)	(1)	(0.008)	交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
(受託会社)	(2)	(0.020)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) その他費用	1	0.008	(b)その他費用 = 期中のその他費用 ÷ 期中の平均受益権口数
(監査費用)	(1)	(0.008)	・ 監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
(その他)	(0)	(0.000)	・ その他は、金銭信託手数料
合 計	38円	0.377%	

(注1) 期中の費用(消費税等のかかるものは消費税等を含みます)は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注2) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額(円未満の端数を含みます)を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、各項目ごとに小数第3位未満は四捨五入しています。

(注3) その他費用は、このファンドが組み入れている投資信託証券が支払った費用を含みません。

(注4) 各項目ごとに円未満は四捨五入しています。

◎売買および取引の状況('18年9月20日から'19年6月20日まで)

○投資信託証券

銘 柄		買 付		売 付	
		口 数	金 額	口 数	金 額
国内	債券タームスプレッド・プレミア戦略ファンド ＜適格機関投資家限定＞	千口 611,136	千円 628	千口 -	千円 -
	短期国債ファンド VA＜適格機関投資家限定＞	99	0	-	-

(注) 単位未満は切り捨てています。

◎利害関係人との取引状況等('18年9月20日から'19年6月20日まで)

当期中における利害関係人との取引はありません。

※利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

◎組入資産の明細('19年6月20日現在)

○投資信託証券

銘 柄		当 期 末		
		口 数	評 価 額	比 率
		口	千円	%
	債券タームスプレッド・プレミア戦略ファンド＜適格機関投資家限定＞	611,136,468	631,242	99.3
	短期国債ファンド VA＜適格機関投資家限定＞	99,167	99	0.0
	合 計	611,235,635	631,342	<99.3%>

(注1) 比率は、純資産に対する比率です。

(注2) 単位未満は切り捨てています。

当期末における株式および新株予約権証券の残高はありません。

◎投資信託財産の構成('19年6月20日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
投 資 信 託 受 益 証 券	千円 631,342	% 99.2
コ ー ル ・ ロ ー ン 等 、 そ の 他	5,082	0.8
投 資 信 託 財 産 総 額	636,424	100.0

(注) 評価額の単位未満は切り捨てています。

◎資産、負債、元本および基準価額の状況

('19年6月20日現在)

項 目	当 期 末
(A)資 産	円 636,424,982
コ ー ル ・ ロ ー ン 等	5,082,225
投資信託受益証券(評価額)	631,342,757
(B)負 債	793,396
未 払 解 約 金	32,030
未 払 信 託 報 酬	729,685
未 払 利 息	12
そ の 他 未 払 費 用	31,669
(C)純 資 産 総 額(A - B)	635,631,586
元 本	635,921,248
次 期 繰 越 損 益 金	△ 289,662
(D)受 益 権 総 口 数	635,921,248口
1 万口当たり基準価額(C/D×10,000)	9,995円

(注1) 設定元本額 9,990,000円
 期中追加設定元本額 630,845,917円
 期中一部解約元本額 4,914,669円

(注2) 純資産総額は元本額を下回っており、その差額は289,662円です。

◎損益の状況

当期(自'18年9月20日 至'19年6月20日)

項 目	当 期
(A)配 当 等 収 益	円 △ 3,789
支 払 利 息	△ 3,789
(B)有 価 証 券 売 買 損 益	3,127,012
売 買 益	3,127,294
売 買 損	△ 282
(C)信 託 報 酬 等	△ 1,477,260
(D)当 期 損 益 金(A + B + C)	1,645,963
(E)追 加 信 託 差 損 益 金	△ 1,935,625
(配 当 等 相 当 額)	(△ 15,312)
(売 買 損 益 相 当 額)	(△ 1,920,313)
(F) 計 (D + E)	△ 289,662
(G)収 益 分 配 金	0
次 期 繰 越 損 益 金(F + G)	△ 289,662
追 加 信 託 差 損 益 金	△ 1,935,625
(配 当 等 相 当 額)	(△ 15,312)
(売 買 損 益 相 当 額)	(△ 1,920,313)
分 配 準 備 積 立 金	1,649,752
繰 越 損 益 金	△ 3,789

(注1) (B)有価証券売買損益は、期末の評価換えによる損益を含みます。
 (注2) (C)信託報酬等は、信託報酬に対する消費税等相当額を含みます。
 (注3) (E)追加信託差損益金とは、追加設定をした価額と元本との差額をいい、配当等相当額と売買損益相当額に区分します。

◎1 万口当たり分配原資の内訳(税込み)

項 目	第 1 期 (2018年9月20日～ 2019年6月20日)
当期分配金	- 円
(対基準価額比率)	- %
当期の収益	- 円
当期の収益以外	- 円
翌期繰越分配対象額	25 円

- (注1) 対基準価額比率は当期分配金(税込み)の期末基準価額(分配金込み)に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。
- (注2) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

○当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信/海外/その他資産/特殊型
信託期間	無期限
運用方針	<ul style="list-style-type: none"> ・主要先進国の長短金利差(タームプレミアム)に基づくファクター・プレミアムを確保するために、定量的・システマティックなプロセスを通じて、対象国に上場されている10年国債先物取引を活用してロング/ショート・ポジションを構築します。 ・原則として日本、米国、英国、ドイツ、フランス、カナダ、オーストラリアおよびスウェーデン(以下「対象国」といいます。)の8ヶ国に上場されている10年国債先物取引を取引対象としますが、市場流動性等を勘案して一部の国を除外する場合や対象国を変更する場合があります。 ・対象国における長短金利差(タームプレミアム)の格差に着目し、長短金利差のランキングに従い、上位国の10年国債先物取引のロング(買建)および下位国の10年国債先物取引のショート(売建)を行います。対象国の10年国債先物取引のロング(買建)およびショート(売建)の実質的なポジションは、それぞれ原則として信託財産の純資産総額の100%相当額とします。 ・組入外貨建資産については原則として為替ヘッジを行います。
主要運用対象	主要先進国の10年国債先物取引および短期国債マザーファンド受益証券
組入制限	<ul style="list-style-type: none"> ・マザーファンド受益証券への投資割合には制限を設けません。 ・対象国の10年国債先物取引のロング(買建)およびショート(売建)の実質的なポジションは、それぞれ原則として信託財産の純資産総額の100%相当額とします。 ・株式への実質投資は、転換社債の転換請求および新株予約権の行使による取得に限り、実質投資割合は信託財産の純資産総額の10%以下とします。 ・外貨建資産への実質投資割合には制限を設けません。
分配方針	収益は、信託終了(償還)時まで信託財産中に留保し、期中には分配は行いません。留保益については、運用の基本方針に基づいて運用を行います。

債券タームスプレッド・プレミア戦略ファンド
〈適格機関投資家限定〉

第1期 運用報告書(全体版)
(決算日 2019年6月20日)

受益者のみなさまへ

平素は格別のお引き立てを賜り、厚く御礼申しあげます。この度、「債券タームスプレッド・プレミア戦略ファンド〈適格機関投資家限定〉」は、2019年6月20日に第1期の決算を行いましたので、運用状況をご報告させていただきます。

今後とも、ご愛顧のほどよろしくお願い申し上げます。

〈ファンドに関する照会先〉

営業本部

電話番号 03(4530)7333

お問い合わせ時間(営業日) 9:00~17:00

ホームページアドレス www.ssga.com/jp

ステート・ストリート・グローバル・アドバイザーズ株式会社

〒105-6325 東京都港区虎ノ門一丁目23番地1号 虎ノ門ヒルズ森タワー25階

◎設定以来の運用実績

決算期	基準価額		<ベンチマーク> 日本円短期金利 (無担保コール翌日物)		債券 組入比率	債券 先物比率	純資産 総額
	円	騰落率 %	円	騰落率 %			
(設定日) '18年2月28日	10,000	-	10,000	-	-	-	百万円 1,666
1期('19年6月20日)	10,329	3.3	9,992	△ 0.1	-	△ 6.4	4,537

(注1) ベンチマークは、日本円短期金利(無担保コール翌日物)で、ファンド設定日を10,000として委託会社が独自に指数化したものです。

(注2) 先物比率=買建比率-売建比率

(注3) 当ファンドはマザーファンドを組み入れるため、「債券組入比率」は実質比率を記載しています。

◎当期中の基準価額と市況等の推移

年月日	基準価額		<ベンチマーク> 日本円短期金利 (無担保コール翌日物)		債券 組入比率	債券 先物比率
	円	騰落率 %	円	騰落率 %		
(設定日) '18年2月28日	10,000	-	10,000	-	-	-
2月末	10,000	0.0			-	-
3月末	10,078	0.8	9,999	△ 0.0	-	△ 4.8
4月末	10,124	1.2	9,999	△ 0.0	-	△ 9.7
5月末	10,219	2.2	9,998	△ 0.0	-	△ 13.3
6月末	10,204	2.0	9,998	△ 0.0	-	△ 7.1
7月末	10,232	2.3	9,997	△ 0.0	-	△ 5.6
8月末	10,260	2.6	9,997	△ 0.0	-	△ 6.7
9月末	10,233	2.3	9,996	△ 0.0	-	△ 3.2
10月末	10,362	3.6	9,996	△ 0.0	-	△ 4.3
11月末	10,344	3.4	9,995	△ 0.0	-	△ 2.6
12月末	10,165	1.7	9,995	△ 0.1	-	△ 5.8
'19年1月末	10,204	2.0	9,994	△ 0.1	-	△ 2.8
2月末	10,213	2.1	9,994	△ 0.1	-	△ 1.4
3月末	10,275	2.8	9,993	△ 0.1	-	△ 7.6
4月末	10,292	2.9	9,993	△ 0.1	-	△ 8.0
5月末	10,297	3.0	9,992	△ 0.1	-	△ 8.6
(期末) '19年6月20日	10,329	3.3	9,992	△ 0.1	-	△ 6.4

(注1) 騰落率は設定日比です。

(注2) ベンチマークは、日本円短期金利(無担保コール翌日物)で、ファンド設定日を10,000として委託会社が独自に指数化したものです。

(注3) 先物比率=買建比率-売建比率

(注4) 当ファンドはマザーファンドを組み入れるため、「債券組入比率」は実質比率を記載しています。

当期の運用実績

(2018年2月28日から2019年6月20日まで)

基準価額とベンチマークの推移



(注) ベンチマークは、日本円短期金利(無担保コール翌日物)で、ファンド設定日を10,000として委託会社が独自に指数化したものです。

決算期	当初元本	期末基準価額	基準価額 騰落率	ベンチマーク 騰落率
第1期	10,000円	10,329円	+3.3%	-0.1%

当期末の基準価額は10,329円となり、当初元本の10,000円に比べて329円の上昇となりました。

基準価額の変動要因およびベンチマークとの比較

基準価額の騰落率は+3.3%となり、ベンチマークの騰落率(-0.1%)を3.4%上回りました。

【プラスの要因】

- 利回り低下が相対的に抑制された日本国債のショートがプラスに寄与しました。
- 利回りが大幅に低下した仏国債のロングがプラスに寄与しました。

【マイナスの要因】

- 利回り低下が相対的に抑制された英国債のロングが小幅にマイナス寄与しました。
- 信託報酬等の費用控除がマイナスに寄与しました。

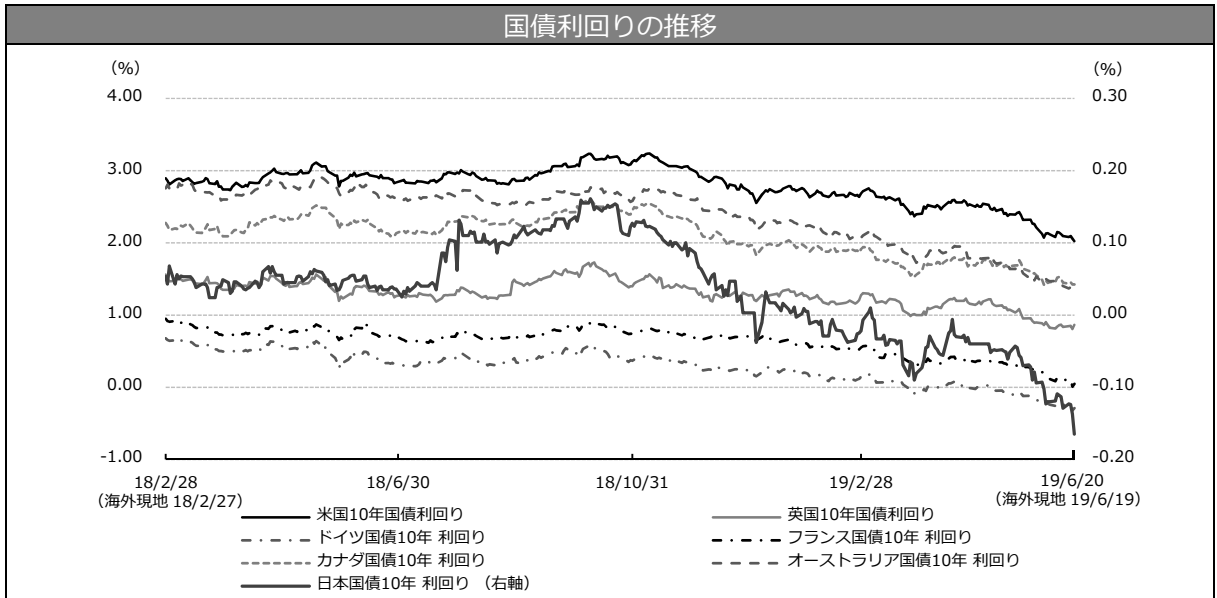
収益分配金

当ファンドは、収益は信託終了時まで信託財産中に留保し、期中には分配は行いません。また収益分配に充てず信託財産に留保した収益は、特に制限を設けず、元本部分と同様の運用を行う方針です。

投資環境

(2018年2月28日から2019年6月20日まで)

主要各国の市場概況



当期の世界の債券市場は、利回りが低下しました。米国では2018年末に米当局の引き締め政策で経済成長が鈍化するとの懸念が広がり、世界的に株式市場が大幅に下落するなどリスク許容度の悪化を背景に利回りが低下しました。2019年入り後、世界的な貿易摩擦激化が世界経済へ与える影響が懸念されたことや、米連邦準備制度理事会(FRB)が年内の利上げを見送る方針を示すなど予想以上にハト派色を強め、また利下げ期待も観測される中、さらに利回りが低下しました。欧州では英国の欧州連合(EU)離脱を巡る不透明感や政治的混迷、また軟調な欧州経済指標が散見されたことを背景に、独、英、仏で利回りが低下しました。また、カナダや豪でもリスク許容度の悪化を背景に利回りが低下しました。日本でも利回りが低下しましたが、日銀の強固な金融政策により利回りの動きは抑制されました。

米国10年債利回りは、設定日2018年2月28日(現地2月27日)の2.89%から当期末2019年6月20日(現地6月19日)の2.02%へ低下(債券価格は上昇)しました。同期間の独10年債利回りは0.68%から-0.29%へ低下、英10年債利回りは1.56%から0.87%へ低下、仏10年債利回りは0.95%から0.05%へ低下、カナダ10年債利回りは2.28%から1.43%へ低下、豪10年債利回りは2.76%から1.34%へ低下、日10年債利回りは0.05%から-0.17%へ低下しました。

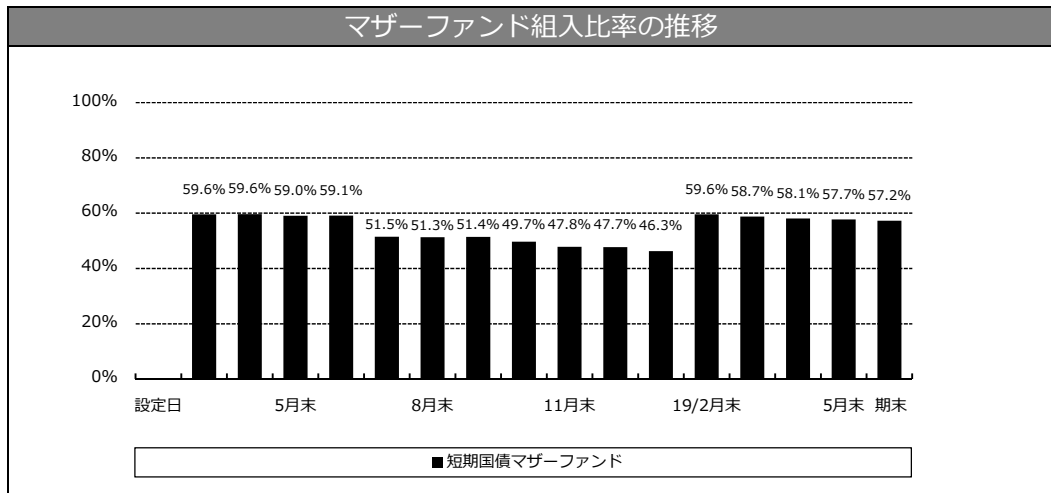
運用の概況

(2018年2月28日から2019年6月20日まで)

当ファンドは主要先進国の長短金利差(タームプレミアム)に基づくファクター・プレミアムを確保するために、定量的・システムティックなプロセスを通じて、対象国に上場されている10年国債先物取引を活用してロング/ショート・ポジションを構築します。また、実質的な組入外貨建資産については原則として為替ヘッジを行いつつ、短期国債マザーファンドへの投資を通じて実質的に日本短期国債に投資を行うことにより、中長期的な観点から、安定的な投資成果の獲得を目指して運用を行います。

マザーファンドの組入状況

当期は、設定日翌営業日から短期国債マザーファンドの組み入れを開始しました。



先物による各国債券のロング・ショートポジション 配分比率

	設定日	3月末	6月末	9月末	12月末	19/3月末	4月末	5月末	期末
投資国									
米国	-	-30.4%	-31.4%	-30.9%	-30.5%	-31.4%	-30.9%	-31.0%	-30.8%
ドイツ	-	29.7%	29.5%	29.5%	28.8%	28.6%	28.1%	28.1%	29.0%
カナダ	-	-30.1%	-31.4%	-40.8%	-39.6%	-31.4%	-30.8%	-30.6%	-41.1%
英国	-	29.4%	29.0%	30.0%	28.4%	28.8%	28.0%	0.0%	0.0%
豪国	-	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	28.2%	28.7%
フランス	-	39.7%	39.6%	39.4%	38.4%	39.0%	38.3%	37.1%	39.0%
日本	-	-43.1%	-42.4%	-30.5%	-31.3%	-41.2%	-40.6%	-40.4%	-31.1%
ロング計	-	98.8%	98.1%	98.9%	95.6%	96.4%	94.4%	93.4%	96.7%
ショート計	-	103.6%	105.2%	102.2%	101.4%	104.0%	102.3%	102.0%	103.1%
合計(グロス)	-	202.4%	203.4%	201.1%	197.0%	200.4%	196.7%	195.4%	199.8%
合計(ネット)	-	-4.8%	-7.1%	-3.2%	-5.8%	-7.6%	-8.0%	-8.6%	-6.4%

国別配分の目標アクティブ・ポジションは、期末では仏、独、豪をロングとし、日、カナダ、米をショートとしました。カーブ形状から仏と独の魅力が高く見えています。カナダと米国はフラットなカーブ形状から魅力を低く評価しています。また日銀の長短金利操作により、日本の魅力も低く評価しています。

2018年2月中 - 「ロング」: 仏 / 独 / 英 - 「ショート」: 日 / カナダ / 米

2019年5月中 - 「ロング」: 仏 / 独 / 豪 - 「ショート」: 日 / カナダ / 米

今後の運用方針

今後も引き続き、主要先進国の10年国債先物のロング/ショート・ポジションによる収益獲得を目指して運用を行ってまいります。

◎1万口(元本10,000円)当たりの費用の明細

項 目	当 期 (2018年2月28日~2019年6月20日)		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
平均基準価額	10,218円	-	期中の平均基準価額です。
(a) 信託報酬	8円	0.078%	(a)信託報酬=期中の平均基準価額×信託報酬率 消費税は報告日の税率を採用しています。
(投信会社)	(4)	(0.042)	委託した資金の運用の対価
(販売会社)	(1)	(0.007)	運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
(受託会社)	(3)	(0.028)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) 売買委託手数料	4	0.039	(b)売買委託手数料=各期中の売買委託手数料÷各期中の平均受益権口数
(先物・オプション)	(4)	(0.039)	売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(c) その他費用	12	0.117	(c)その他費用=期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
(監査費用)	(1)	(0.014)	・ 監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
(その他)	(10)	(0.103)	・ その他は、LEI 支払手数料、金銭信託手数料、金融先物取引で発生する利息費用及び清算手数料
合 計	24円	0.234%	

(注1) 期中の費用(消費税等のかかるものは消費税等を含みます)は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注2) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額(円未満の端数を含みます)を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、各項目ごとに小数第3位未満は四捨五入しています。

(注3) その他費用は、当ファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注4) 各項目ごとに円未満は四捨五入しています。

◎売買および取引の状況('18年2月28日から'19年6月20日まで)

○先物取引の銘柄別取引状況

銘柄別		買 建		売 建	
		新規買付額	決済額	新規売付額	決済額
国内		百万円	百万円	百万円	百万円
	SGX 10YR MINI JGB	-	-	10,115	8,729
外	ULTRA 10YR UST	-	-	7,478	6,175
	CAN 10YR BOND	-	-	9,207	7,391
	AUS 10YR BOND	2,564	1,285	-	-
国	LONG GILT 10YR	5,899	5,847	-	-
	EURO-BUND 10YR	7,132	5,835	-	-
	EURO-OAT 10YR	9,680	7,931	-	-

(注1) 金額は受渡代金です。

(注2) 外国の取引金額は、各月末(決算日の属する月については決算日)のわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算した金額の合計です。

(注3) 単位未満は切り捨てています。

○親投資信託受益証券の設定、解約状況

	設 定		解 約	
	口 数	金 額	口 数	金 額
	千口	千円	千口	千円
短期国債マザーファンド	2,559,113	2,600,000	-	-

(注) 単位未満は切り捨てています。

◎主要な売買銘柄('18年2月28日から'19年6月20日まで)

○公社債(短期国債マザーファンドにおける主要な売買銘柄)

買 付		売 付	
銘柄	金額	銘柄	金額
	千円		千円
第781回国庫短期証券	1,000,013		

(注1) 金額は受渡代金です(経過利子分は含まれていません)。

(注2) 国内の現先取引によるものは含まれていません。

(注3) 単位未満は切り捨てています。

◎利害関係人との取引状況等('18年2月28日から'19年6月20日まで)

当期中における利害関係人との取引はありません。

※利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

◎組入資産の明細('19年6月20日現在)

○先物取引の銘柄別期末残高

銘柄別		当期末評価額	
		買建額	売建額
国内	S G X 1 0 Y R M I N I J G B	百万円 -	百万円 1,413
	U L T R A 1 0 Y R U S T	-	1,397
外	A U S 1 0 Y R B O N D	1,301	-
	C A N 1 0 Y R B O N D	-	1,866
国	E U R O - B U N D 1 0 Y R	1,315	-
	E U R O - O A T 1 0 Y R	1,771	-

(注1) 邦貨換算金額は、当期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。

(注2) 単位未满是切り捨てています。

○親投資信託残高

種類	当期末	
	口数	評価額
短期国債マザーファンド	千口 2,559,113	千円 2,597,500

(注1) 単位未满是切り捨てています。

(注2) 当期末における短期国債マザーファンド全体の口数は70,268,403千口です。

当期末における株式および新株予約権証券の残高はありません。

◎投資信託財産の構成('19年6月20日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
短 期 国 債 マ ザ ー フ ァ ン ド	2,597,500	56.5
コ ー ル ・ ロ ー ン 等 、 そ の 他	2,003,681	43.5
投 資 信 託 財 産 総 額	4,601,181	100.0

(注1) 外貨建資産は、当期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。なお、当期末における邦貨換算レートは、1米ドル=107.79円、1カナダドル=81.32円、1ユーロ=121.29円、1英ポンド=136.60円、1オーストラリアドル=74.38円です。

(注2) 当期末における外貨建純資産(124,315千円)の投資信託財産総額(4,601,181千円)に対する比率は2.7%です。

(注3) 評価額の単位未満は切り捨てています。

◎資産、負債、元本および基準価額の状況

('19年6月20日現在)

項 目	当 期 末
	円
(A)資 産	5,238,417,448
コ ー ル ・ ロ ー ン 等	1,390,358,993
短期国債マザーファンド(評価額)	2,597,500,200
未 収 入 金	707,840,412
差 入 委 託 証 拠 金	542,717,843
(B)負 債	700,772,089
未 払 金	698,180,844
未 払 信 託 報 酬	2,052,624
未 払 利 息	3,501
そ の 他 未 払 費 用	535,120
(C)純 資 産 総 額(A - B)	4,537,645,359
元 本	4,393,266,616
次 期 繰 越 損 益 金	144,378,743
(D)受 益 権 総 口 数	4,393,266,616口
1 万口当たり基準価額(C/D×10,000)	10,329円

(注) 設定元本額 1,666,650,000円
期中追加設定元本額 2,742,646,204円
期中一部解約元本額 16,029,588円

◎損益の状況

当期(自'18年2月28日 至'19年6月20日)

項 目	当 期
	円
(A)配 当 等 収 益	△ 1,593,462
そ の 他 収 益 金	23,267
支 払 利 息	△ 1,616,729
(B)有 価 証 券 売 買 損 益	6,409,994
売 買 益	25,625,600
売 買 損	△ 19,215,606
(C)先 物 取 引 等 取 引 損 益	98,207,354
取 引 益	389,279,147
取 引 損	△ 291,071,793
(D)信 託 報 酬 等	△ 7,036,825
(E)当期損益金(A + B + C + D)	95,987,061
(F)追 加 信 託 差 損 益 金	48,391,682
(配 当 等 相 当 額)	(△ 277,274)
(売 買 損 益 相 当 額)	(48,668,956)
(G) 計 (E + F)	144,378,743
次 期 繰 越 損 益 金(G)	144,378,743
追 加 信 託 差 損 益 金	48,391,682
(配 当 等 相 当 額)	(△ 363,018)
(売 買 損 益 相 当 額)	(48,754,700)
分 配 準 備 積 立 金	99,757,816
繰 越 損 益 金	△ 3,770,755

(注1) (B)有価証券売買損益および(C)先物取引等取引損益は、期末の評価換えによる損益を含みます。

(注2) (D)信託報酬等は、信託報酬に対する消費税等相当額を含みます。

(注3) (F)追加信託差損益金とは、追加設定をした価額と元本との差額をいい、配当等相当額と売買損益相当額に区分します。

○当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信/国内/債券	
信託期間	無期限	
運用方針	・短期国債マザーファンドへの投資を通じて、国債を中心に日本の短期公社債等に実質的な投資を行い、安定した投資成果の獲得を目指して運用を行います。	
主要運用対象	ベビード ファンド	短期国債マザーファンド
	マザー ファンド	日本の短期公社債等
組入制限	ベビード ファンド	<ul style="list-style-type: none"> ・マザーファンド受益証券への投資割合には制限を設けません。 ・公社債への実質投資割合には制限を設けません。 ・満期1年を超える公社債への実質投資は行いません。 ・株式への投資は、転換社債の転換および新株予約権の行使による取得に限り、実質投資割合は信託財産の純資産総額の10%以下とします。 ・外貨建資産への実質投資は行いません。
	マザー ファンド	<ul style="list-style-type: none"> ・公社債の投資割合には制限を設けません。 ・満期1年を超える公社債への投資は行いません。 ・株式への投資は、転換社債の転換請求および新株予約権の行使による取得に限り、信託財産の純資産総額の10%以下とします。 ・外貨建資産への投資は行いません。
分配方針	<p>毎決算時に、原則として次の通り収益分配を行う方針です。</p> <p>①分配対象額の範囲 分配対象額は、経費控除後の利子・配当収入および売買益(評価益を含みます)等全額とします。</p> <p>②分配方針 分配金額は、委託者が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。ただし、分配対象額が少額の場合には、分配を行わないこともあります。</p> <p>③留保益の運用方針 収益分配に充てず信託財産内に留保した利益については、運用の基本方針に基づき運用を行います。</p>	

STATE STREET GLOBAL ADVISORS

短期国債ファンドV A 〈適格機関投資家限定〉

第10期 運用報告書(全体版)
(決算日 2019年4月15日)

受益者のみなさまへ

平素は格別のお引き立てを賜り、厚く御礼申しあげます。
この度、「短期国債ファンドV A 〈適格機関投資家限定〉」は、2019年4月15日に第10期の決算を行いましたので、運用状況をご報告させていただきます。
今後とも、ご愛顧のほどよろしくお願い申しあげます。

<ファンドに関する照会先>

営業本部

電話番号 03(4530)7333

お問い合わせ時間(営業日) 9:00~17:00

ホームページアドレス www.ssga.com/jp

ステート・ストリート・グローバル・アドバイザーズ株式会社

〒105-6325 東京都港区虎ノ門一丁目23番地1号 虎ノ門ヒルズ森タワー25階

◎最近5期の運用実績

決算期	基準価額			債券 組入比率	債券 先物比率	純資産 総額
	(分配落)	税込み 分配金	期中 騰落率			
	円	円	%	%	%	百万円
6期('15年4月15日)	10,132	0	1.1	75.5	—	72,079
7期('16年4月15日)	10,125	0	△ 0.1	49.1	—	64,850
8期('17年4月17日)	10,110	0	△ 0.1	70.4	—	41,168
9期('18年4月16日)	10,093	0	△ 0.2	—	—	37,389
10期('19年4月15日)	10,077	0	△ 0.2	—	—	53,120

(注1) 当ファンドは主として満期1年以内の日本の国債を投資対象としておりますが、値動きを表す適切な指数が存在しないため、ベンチマーク等を設けておりません。

(注2) 先物比率=買建比率-売建比率

(注3) 当ファンドはマザーファンドを組み入れるため、「債券組入比率」、「債券先物比率」は実質比率を記載しています。

◎当期中の基準価額等の推移

年月日	基準価額		債券 組入比率	債券 先物比率
	円	騰落率		
(期首)	円	%	%	%
'18年4月16日	10,093	—	—	—
4月末	10,093	0.0	—	—
5月末	10,091	△ 0.0	—	—
6月末	10,090	△ 0.0	—	—
7月末	10,088	△ 0.0	—	—
8月末	10,087	△ 0.1	—	—
9月末	10,086	△ 0.1	—	—
10月末	10,084	△ 0.1	—	—
11月末	10,083	△ 0.1	—	—
12月末	10,082	△ 0.1	—	—
'19年1月末	10,080	△ 0.1	—	—
2月末	10,079	△ 0.1	—	—
3月末	10,077	△ 0.2	—	—
(期末)				
'19年4月15日	10,077	△ 0.2	—	—

(注1) 騰落率は期首比です。

(注2) 当ファンドは主として満期1年以内の日本の国債を投資対象としておりますが、値動きを表す適切な指数が存在しないため、ベンチマーク等を設けておりません。

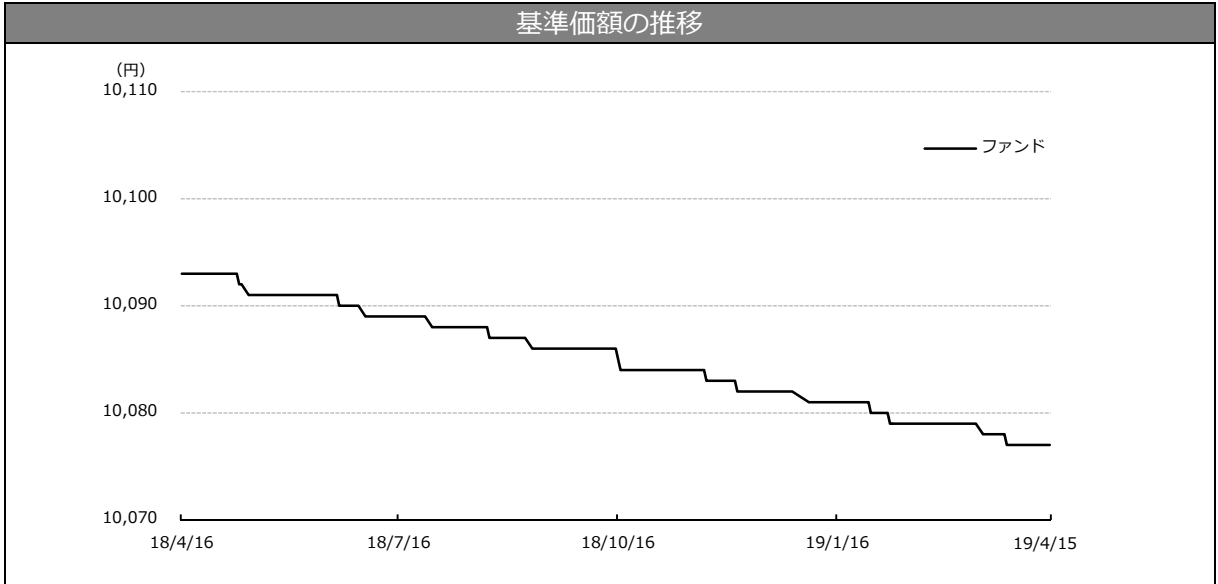
(注3) 先物比率=買建比率-売建比率

(注4) 当ファンドはマザーファンドを組み入れるため、「債券組入比率」、「債券先物比率」は実質比率を記載しています。

当期の運用実績

(2018年4月17日から2019年4月15日まで)

基準価額の推移



(注) 当ファンドは主として満期1年以内の日本の国債を投資対象としておりますが、値動きを表す適切な指数が存在しないため、ベンチマーク等を設けておりません。

決算期	期首基準価額 (分配落ち)	期末基準価額 (分配落ち)	分配金	基準価額 騰落率
第10期	10,093円	10,077円	0円	-0.2%

当期末の基準価額は10,077円となり、前期末の10,093円に比べて16円の下落となりました。

基準価額の変動要因

【プラスの要因】

－円キャッシュよりもマイナス幅の小さい利回りを有する債券を購入し満期まで保有したことがマイナス利回りの影響を弱め、基準価額にプラスに寄与しました。

【マイナスの要因】

－日銀によるマイナス金利政策の継続により、引き続き円キャッシュにマイナス利回りが付利されたことと債券の満期保有利回りがマイナスとなったことが基準価額に対してマイナスに寄与しました。

収益分配金

当期の収益分配金は基準価額の水準、市況動向などを勘案した結果、見送りとしております。また収益分配に充てず信託財産に留保した収益は、特に制限を設けず、元本部分と同様の運用を行う方針です。

投資環境

(2018年4月17日から2019年4月15日まで)

短期国債市場

当期の短期国債市場は、日銀による国庫短期証券の買い入れ金額が段階的に減額されたことが売り材料となった一方、株式市場の調整などリスク許容度の低下や日銀による金融緩和継続観測が債券の買い材料となりました。

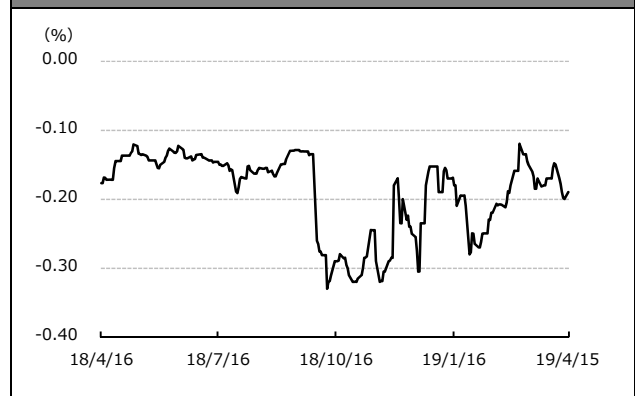
金融政策面からの影響としては、日銀による買い入れオペが継続し短期国債市場を下支えしましたが、国庫短期証券の買い入れ額が減少したことが短期国債の売り材料となりました。しかし2019年1月の展望レポートで日銀が物価見通しを引き下げると、これが金融緩和が継続されるとの見方につながり、短期国債の買い材料となりました。

経済指標面では、期前半は、2018年4-6月期実質GDP(速報値)が事前予想を上回って増加したほか、4-6月期設備投資が事前予想を大きく上回る伸びを示すなど、堅調な経済指標が短期国債の売り材料となりました。期後半は、7-9月期実質GDP(速報値)が2四半期ぶりのマイナス成長となり、また10-12月期実質GDP(速報値)が事前予想を下回るなど、軟調な経済指標が債券の買い材料となりました。

需給面では、担保需要や世界的な株式市場の調整を受けたリスク許容度の悪化が安定的な短期国債への需要につながり、短期国債の平均落札利回りがマイナス圏で推移しました。

3か月物国庫短期証券利回りは、前期末の-0.177%から0.013%低下の-0.190%で当期末を迎えました。

3か月物国庫短期証券利回り



運用の概況

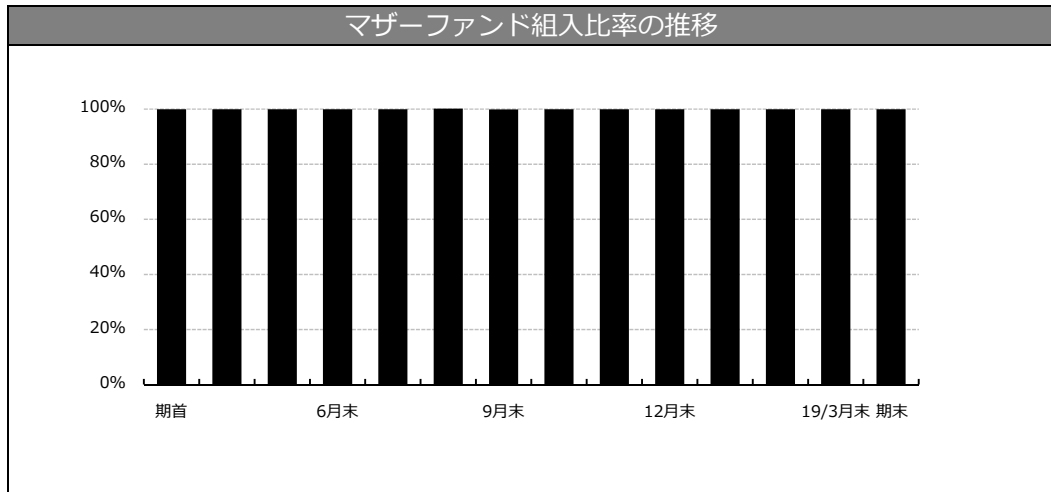
(2018年4月17日から2019年4月15日まで)

当ファンドは「短期国債マザーファンド」(以下、マザーファンドといいます) 受益証券を主な投資対象としています。マザーファンドの組入比率は原則として高位を保ちます。

マザーファンドは、主として国債を中心に日本の短期公社債などに投資を行い、安定した投資成果の獲得を目指して運用を行うことを基本的な運用方針としています。公社債への投資は原則として高位を維持し、外貨建資産に対する投資は行っておりません。

マザーファンドの組入状況

当期末、設定・解約に伴う一時的な増減を除き、マザーファンドを高位に組み入れました。



今後の運用方針

今後も引き続き、マザーファンドを通じて、国債を中心に日本の短期公社債等に実質的な投資を行い、安定した投資成果の獲得を目指して運用を行います。

◎1万口(元本10,000円)当たりの費用の明細

項目	当期 (2018年4月17日~2019年4月15日)		項目の概要
	金額	比率	
平均基準価額	10,085円	-	期中の平均基準価額です。
(a) 信託報酬	7円	0.065%	(a)信託報酬=期中の平均基準価額×信託報酬率 消費税は報告日の税率を採用しています。
(投信会社)	(3)	(0.032)	委託した資金の運用の対価
(販売会社)	(1)	(0.011)	運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
(受託会社)	(2)	(0.022)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) その他費用	1	0.011	(b)その他費用=期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
(監査費用)	(0)	(0.001)	・監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
(その他)	(1)	(0.010)	・その他は、金銭信託手数料
合計	8円	0.076%	

(注1) 期中の費用(消費税等のかかるものは消費税等を含みます)は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注2) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額(円未満の端数を含みます)を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、各項目ごとに小数第3位未満は四捨五入しています。

(注3) その他費用は、当ファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注4) 各項目ごとに円未満は四捨五入しています。

◎売買および取引の状況('18年4月17日から'19年4月15日まで)

○親投資信託受益証券の設定、解約状況

	設 定		解 約	
	口 数	金 額	口 数	金 額
短期国債マザーファンド	千口 45,654,038	千円 46,366,100	千口 30,148,494	千円 30,621,718

(注) 単位未満は切り捨てています。

◎主要な売買銘柄('18年4月17日から'19年4月15日まで)

○公社債(短期国債マザーファンドにおける主要な売買銘柄)

買 付		売 付	
銘 柄	金 額	銘 柄	金 額
第781回 国庫短期証券	千円 1,000,013		千円

(注1) 金額は受渡代金です(経過利子分は含まれていません)。

(注2) 国内の現先取引によるものは含まれていません。

(注3) 単位未満は切り捨てています。

◎利害関係人との取引状況等('18年4月17日から'19年4月15日まで)

当期中における利害関係人との取引はありません。

※利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

◎組入資産の明細('19年4月15日現在)

○親投資信託残高

種 類	期首(前期末)	当 期 末	
	口 数	口 数	評 価 額
	千口	千口	千円
短 期 国 債 マ ザ ー フ ァ ン ド	36,778,891	52,284,435	53,079,158

(注1) 単位未満は切り捨てています。

(注2) 当期末における短期国債マザーファンド全体の口数は78,558,608千口です。

当期末における株式および新株予約権証券の残高はありません。

◎投資信託財産の構成('19年4月15日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
短 期 国 債 マ ザ ー フ ァ ン ド	53,079,158	99.9
コ ー ル ・ ロ ー ン 等 、 そ の 他	56,565	0.1
投 資 信 託 財 産 総 額	53,135,723	100.0

(注) 評価額の単位未満は切り捨てています。

◎資産、負債、元本および基準価額の状況

('19年4月15日現在)

項 目	当 期 末
	円
(A)資 産	53,135,723,256
コ ー ル ・ ロ ー ン 等	56,564,471
短期国債マザーファンド(評価額)	53,079,158,785
(B)負 債	15,690,598
未 払 信 託 報 酬	15,150,149
未 払 利 息	102
そ の 他 未 払 費 用	540,347
(C)純 資 産 総 額(A - B)	53,120,032,658
元 本	52,713,173,810
次 期 繰 越 損 益 金	406,858,848
(D)受 益 権 総 口 数	52,713,173,810口
1 万口当たり基準価額 (C/D×10,000)	10,077円

(注) 期首元本額 37,045,302,764円
 期中追加設定元本額 45,979,692,932円
 期中一部解約元本額 30,311,821,886円

◎損益の状況

当期 (自'18年4月17日 至'19年4月15日)

項 目	当 期
	円
(A)配 当 等 収 益	△ 21,994
支 払 利 息	△ 21,994
(B)有 価 証 券 売 買 損 益	△ 18,327,801
売 買 益	1,650,023
売 買 損	△ 19,977,824
(C)信 託 報 酬 等	△ 26,966,648
(D)当 期 損 益 金(A + B + C)	△ 45,316,443
(E)前 期 繰 越 損 益 金	△ 4,242,253
(F)追 加 信 託 差 損 益 金	456,417,544
(配 当 等 相 当 額)	(584,840,691)
(売 買 損 益 相 当 額)	(△ 128,423,147)
(G) 計 (D + E + F)	406,858,848
(H)収 益 分 配 金	0
次 期 繰 越 損 益 金 (G + H)	406,858,848
追 加 信 託 差 損 益 金	456,417,544
(配 当 等 相 当 額)	(581,721,600)
(売 買 損 益 相 当 額)	(△ 125,304,056)
分 配 準 備 積 立 金	359,948
繰 越 損 益 金	△ 49,918,644

(注1) (B)有価証券売買損益は、期末の評価換えによる損益を含みます。
 (注2) (C)信託報酬等は、信託報酬に対する消費税等相当額を含みます。
 (注3) (E)前期繰越損益金とは、分配準備積立金と繰越損益金の合計で、前期末の金額に、期中一部解約により変動した金額を調整して算出しています。
 (注4) (F)追加信託差損益金とは、追加設定をした価額と元本との差額をいい、配当等相当額と売買損益相当額に区分します。前期末の金額に、期中追加設定および一部解約により変動した金額を調整して算出しています。

短期国債マザーファンド

第 10 期 運用報告書 (決算日 2019 年 4 月 15 日)

短期国債マザーファンドの第 10 期の運用状況をご報告させていただきます。

○当ファンドの仕組みは次の通りです。

運 用 方 針	<ul style="list-style-type: none"> ・国債を中心に日本の短期公社債等に投資を行い、安定した投資成果を目指して運用を行います。 ・債券組入比率は原則として高位を維持します。
主 要 運 用 対 象	日本の短期公社債等
組 入 制 限	<ul style="list-style-type: none"> ・公社債への投資割合には制限を設けません。 ・満期1年を超える公社債への投資は行いません。 ・株式への投資は、転換社債の転換請求および新株予約権の行使による取得に限り、投資割合は信託財産の純資産総額の10%以下とします。 ・外貨建資産への投資は行いません。

ステート・ストリート・グローバル・アドバイザーズ株式会社

〒105-6325 東京都港区虎ノ門一丁目 23 番地 1 号 虎ノ門ヒルズ森タワー 25 階

◎最近5期の運用実績

決算期	基準価額		債券 組入比率	債券 先物比率	純資産 総額
	円	騰落率			
6期('15年4月15日)	10,180	1.3	75.5	-	72,083
7期('16年4月15日)	10,180	0.0	49.1	-	64,862
8期('17年4月17日)	10,171	△ 0.1	70.4	-	58,803
9期('18年4月16日)	10,161	△ 0.1	-	-	63,801
10期('19年4月15日)	10,152	△ 0.1	-	-	79,750

(注1) 当ファンドは主として満期1年以内の日本の国債を投資対象としておりますが、値動きを表す適切な指数が存在しないため、ベンチマーク等を設けておりません。

(注2) 先物比率 = 買建比率 - 売建比率

◎当期中の基準価額等の推移

年月日	基準価額		債券 組入比率	債券 先物比率
	円	騰落率		
(期首)	円	%	%	%
'18年4月16日	10,161	-	-	-
4月末	10,161	0.0	-	-
5月末	10,160	△ 0.0	-	-
6月末	10,159	△ 0.0	-	-
7月末	10,158	△ 0.0	-	-
8月末	10,158	△ 0.0	-	-
9月末	10,157	△ 0.0	-	-
10月末	10,156	△ 0.0	-	-
11月末	10,155	△ 0.1	-	-
12月末	10,155	△ 0.1	-	-
'19年1月末	10,154	△ 0.1	-	-
2月末	10,153	△ 0.1	-	-
3月末	10,152	△ 0.1	-	-
(期末)				
'19年4月15日	10,152	△ 0.1	-	-

(注1) 騰落率は期首比です。

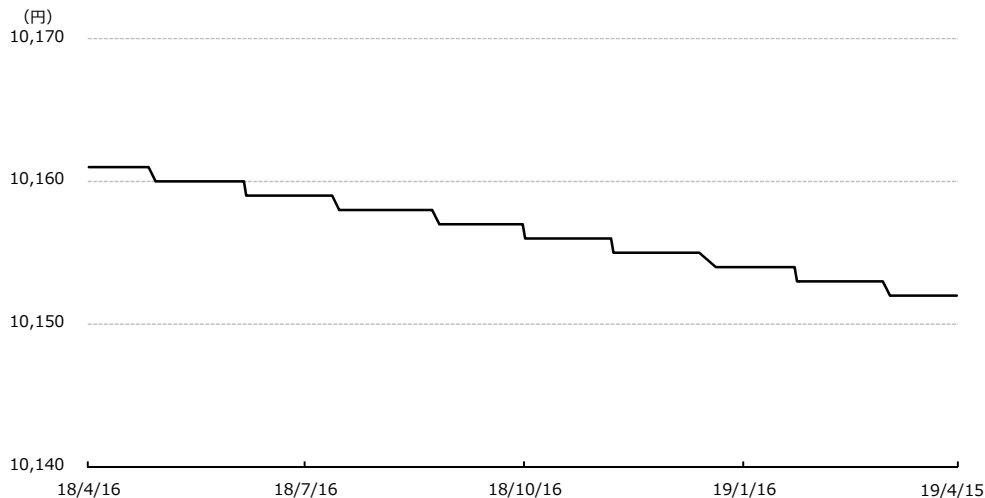
(注2) 当ファンドは主として満期1年以内の日本の国債を投資対象としておりますが、値動きを表す適切な指数が存在しないため、ベンチマーク等を設けておりません。

(注3) 先物比率 = 買建比率 - 売建比率

当期の運用実績

(2018年4月17日から2019年4月15日まで)

基準価額の推移



(注) 当ファンドは主として満期 1 年以内の日本の国債を投資対象としておりますが、値動きを表す適切な指数が存在しないため、ベンチマーク等を設けておりません。

当期末の基準価額は10,152円となり、前期末の10,161円に比べて9円の下落となりました。

基準価額の変動要因

【プラスの要因】

－円キャッシュよりもマイナス幅の小さい利回りを有する債券を購入し満期まで保有したことがマイナス利回りの影響を弱め、基準価額にプラスに寄与しました。

【マイナスの要因】

－日銀によるマイナス金利政策の継続により、引き続き円キャッシュにマイナス利回りが付利されたことと債券の満期保有利回りがマイナスとなったことが基準価額に対してマイナスに寄与しました。

投資環境

(2018年4月17日から2019年4月15日まで)

短期国債市場

当期の短期国債市場は、日銀による国庫短期証券の買入れ金額が段階的に減額されたことが売り材料となった一方、株式市場の調整などリスク許容度の低下や日銀による金融緩和継続観測が債券の買い材料となりました。

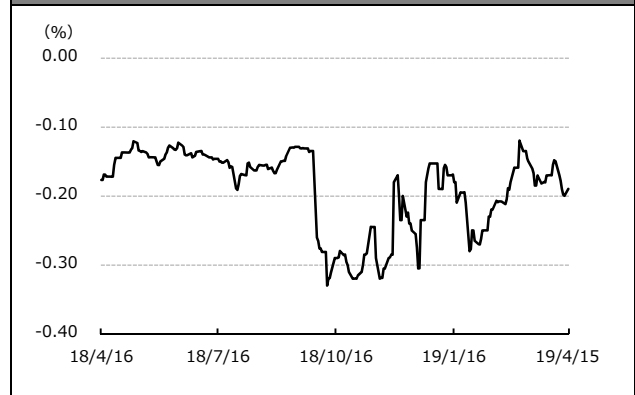
金融政策面からの影響としては、日銀による買入れオペが継続し短期国債市場を下支えしましたが、国庫短期証券の買入れ額が減少したことが短期国債の売り材料となりました。しかし2019年1月の展望レポートで日銀が物価見通しを引き下げると、これが金融緩和が継続されるとの見方につながり、短期国債の買い材料となりました。

経済指標面では、期前半は、2018年4-6月期実質GDP(速報値)が事前予想を上回って増加したほか、4-6月期設備投資が事前予想を大きく上回る伸びを示すなど、堅調な経済指標が短期国債の売り材料となりました。期後半は、7-9月期実質GDP(速報値)が2四半期ぶりのマイナス成長となり、また10-12月期実質GDP(速報値)が事前予想を下回るなど、軟調な経済指標が債券の買い材料となりました。

需給面では、担保需要や世界的な株式市場の調整を受けたリスク許容度の悪化が安定的な短期国債への需要につながり、短期国債の平均落札利回りがマイナス圏で推移しました。

3か月物国庫短期証券利回りは、前期末の-0.177%から0.013%低下の-0.190%で当期末を迎えました。

3か月物国庫短期証券利回り



運用の概況

(2018年4月17日から2019年4月15日まで)

当マザーファンドは、主として国債を中心に日本の短期公社債などに投資を行い、安定した投資成果の獲得を目指して運用を行うことを基本的な運用方針としています。公社債への投資は原則として高位を維持し、外貨建資産に対する投資は行っていません。

日銀によるマイナス金利政策が継続され、短期国債市場で債券のマイナス利回りが恒常化しております。こうした環境下においては、マイナス金利の影響を抑制するために円キャッシュ利回りのマイナス幅と債券利回りのマイナス幅を比較し、債券購入によって円キャッシュよりも高い利回りを享受しうる場合に債券を購入しました。

当期後半、2019年3月4日に円キャッシュよりも高い利回りをもつ短期国債を購入しました。3月11日に当債券が償還を迎えた後は、円キャッシュよりも高い利回りをもつ短期国債の購入が極めて困難な市場環境であったことから円キャッシュを保持しました。

今後の運用方針

上述のように、短期国債市場の流動性が低下し、かつマイナス金利が恒常化する環境においては、今後も引き続き短期国債市場を注視し、円キャッシュよりも高い利回りを有する短期国債の購入機会を探りながら安定した投資成果を目指します。

◎1万口(元本10,000円)当たりの費用の明細

項目	当期 (2018年4月17日~2019年4月15日)		項目の概要
	金額	比率	
平均基準価額	10,156円	-	期中の平均基準価額です。
(a) その他費用	1円	0.010%	(a)その他費用 = 期中のその他費用 ÷ 期中の平均受益権口数
(その他)	(1)	(0.010)	・その他は、金銭信託手数料
合計	1円	0.010%	

(注1) 期中の費用(消費税等のかかるものは消費税等を含みます)は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注2) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額(円未満の端数を含みます)を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、各項目ごとに小数第3位未満は四捨五入しています。

(注3) 各項目ごとに円未満は四捨五入しています。

◎売買および取引の状況('18年4月17日から'19年4月15日まで)

○公社債

		買付額	売付額
		千円	千円
国内	国債証券	1,000,013	- (1,000,000)

(注1) 金額は受渡代金です(経過利子分は含まれていません)。

(注2) ()内は償還による減少分で、上段の数字には含まれていません。

(注3) 単位未満は切り捨てています。

◎主要な売買銘柄('18年4月17日から'19年4月15日まで)

○公社債

買付		売付	
銘柄	金額	銘柄	金額
		千円	
第781回 国庫短期証券	1,000,013		

(注1) 金額は受渡代金です(経過利子分は含まれていません)。

(注2) 国内の現先取引によるものは含まれていません。

(注3) 単位未満は切り捨てています。

◎利害関係人との取引状況等('18年4月17日から'19年4月15日まで)

当期中における利害関係人との取引はありません。

※利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

◎組入資産の明細('19年4月15日現在)

当期末における公社債、株式および新株予約権証券の残高はありません。

◎投資信託財産の構成('19年4月15日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
コ ー ル ・ ロ ー ン 等 、 そ の 他	79,751,323	100.0
投 資 信 託 財 産 総 額	79,751,323	100.0

(注) 評価額の単位未満は切り捨てています。

◎資産、負債、元本および基準価額の状況

('19年4月15日現在)

項 目	当 期 末
	円
(A)資 産	79,751,323,929
コ ー ル ・ ロ ー ン 等	79,751,323,929
(B)負 債	694,198
未 払 利 息	144,276
そ の 他 未 払 費 用	549,922
(C)純 資 産 総 額 (A - B)	79,750,629,731
元 本	78,558,608,070
次 期 繰 越 損 益 金	1,192,021,661
(D)受 益 権 総 口 数	78,558,608,070口
1 万 口 当 た り 基 準 価 額 (C/D×10,000)	10,152円

- (注1) 期首元本額 62,789,495,461円
 期中追加設定元本額 49,986,220,198円
 期中一部解約元本額 34,217,107,589円
- (注2) 当マザーファンドの当期末元本額におけるベビーファンド別内訳は、次の通りです。
 短期国債ファンドVA<適格機関投資家限定> 52,284,435,368円
 米国株式インバースファンド(建玉非調整型)/為替ヘッジありB<適格機関投資家限定> 12,201,416,897円
 フレックス資産配分ファンド・プラス<適格機関投資家限定> 8,758,991,772円
 債券タームスプレッド・プレミア戦略ファンド<適格機関投資家限定> 2,559,113,498円
 為替スマートベータ・プレミア戦略ファンド<適格機関投資家限定> 1,968,213,360円
 米国ドル・インバースファンド(建玉非調整型)<適格機関投資家限定> 786,319,286円
 ステートストリート・ゴールドファンド(為替ヘッジあり) 98,252円
 ステート・ストリート新興国債券インデックス・オープン 19,637円

◎損益の状況

当期 (自'18年4月17日 至'19年4月15日)

項 目	当 期
	円
(A)配 当 等 収 益	△ 55,680,450
支 払 利 息	△ 55,680,450
(B)有 価 証 券 売 買 損 益	△ 13,000
売 買 損	△ 13,000
(C)そ の 他 費 用	△ 6,507,539
(D)当 期 損 益 金 (A + B + C)	△ 62,200,989
(E)前 期 繰 越 損 益 金	1,012,250,687
(F)追 加 信 託 差 損 益 金	779,879,812
(G)解 約 差 損 益 金	△ 537,907,849
(H) 計 (D + E + F + G)	1,192,021,661
次 期 繰 越 損 益 金 (H)	1,192,021,661

- (注1) (B)有価証券売買損益は、期末の評価換えによる損益を含みます。
 (注2) (F)追加信託差損益金とは、追加設定をした価額と元本との差額をいい、元本を上回る場合は利益として、下回る場合は損失として処理されます。
 (注3) (G)解約差損益金とは、一部解約をした価額と元本との差額をいい、元本を下回る場合は利益として、上回る場合は損失として処理されます。